



板前の伊与田真一さん

月齢の板前さんが 川尻にお弁当屋さんを開く!!

あの杭打ち式かき御前も復活

安浦郵便局向かいにあった「地酒・地魚 月齢」の板前だった、伊与田真一さん（37才）が川尻駅にお弁当屋「おひさん」を開店しました。

昭和レトロな雰囲気店内にお弁当とお惣菜が並びます。ご飯にこだわり、ぬか釜を使い、もみ殻でご飯を炊いています。お弁当は2階の座敷でも食べられます。またお昼時には定食もあり、「月齢」で定評だったあの「杭打ち式かき御膳」もシーズンには食べられます。

伊与田さんは3年前に安浦町中畑に引っ越してこられました。田舎暮らしが大好きで、将来はもっと自然豊かな場所でお店を開きたいとのこと。そして若い人の定住する手助けができればいいなと、夢を語ってくれました。

「おひさん」
・呉市川尻町西2丁目17-9 電話 70-5150
・営業時間：午前7時頃から午後7時頃まで（完切れ次第終了）
・昼定食：午前11時30分～午後2時まで ・休休日：木・日



「おひさん」の外観と店内



仕事中の武子さん



原山武子さん

武子さんの仕事場

内海北2丁目亀山神社向側の道路沿いに、小さな建物が目にとまります。持主の原山武子さんは昭和21年女子畑に生まれ、学生の頃から縫物が好きで高校卒業後は、広島や呉の洋裁店で腕を磨きました。

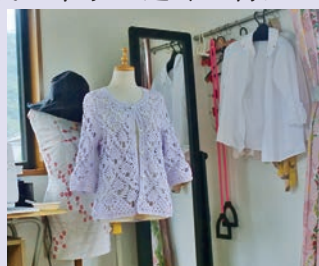
結婚後は子育ての傍ら、自宅で子供服等を縫っていましたが、家事との区別がつかないのが悩みでした。平成2年家の近くに待望の仕事場が出来上がり、「自宅からも近く何よりも気持ちの切替になる」とお気に入りです。

仕事は主に衣服全般の直しで、どんな物でも希望どおりに手直しする、幅広い才能の持主です。

物が溢れ使い捨てされる現在、私達が忘れている大切な仕事をされています。

家族の理解や協力があってこそと感謝する武子さんです。

仕事場
安浦町内海北2丁目10-10
電話 84-6871



作品

..... まちづくり活動 学ぼう ・ 伝えよう



安浦を知ろう ・ 学ぼう ・ 伝えよう

まちしるべウォーキングマップ作成中!!

昔の地名（字名）とその由来を後世に伝えたいとの思いで、平成24年度から「まちしるべ（石碑）」を設置してきました。

平成28年度は大谷・市迫地区に立て、町内で合計25本を設置しました。

このまちしるべを中心に、周辺の史蹟・自然観察・伝承地を歩く、健康ウォーキングマップの冊子を作っています。

完成は来年春の予定です。皆さん、五感をつかい自然と歴史を感じ歩き健康づくりをしましょう。



「きらめく安浦」は永遠に!!

(二) 町民音頭（平成元年〔1989〕5月制定）

きらめく安浦

作詞 島田陽子
作曲 池田八声



詳細は町史（地誌：民俗編）

♪ここは瀬戸内～とろりと風いで...

どこかで聞いた歌詞とメロディ。安浦にお住まいなら、女性会のみなさんの華やかな踊りを思い浮かべる人もいます。

「きらめく安浦」は、まだ安浦町時代の平成元年5月、「海と緑とロマンの町・安浦」の町民音頭として、振り付けと合わせて制定されました。この年、天皇皇后両陛下をお迎えして「第9回全国豊かな海づくり大会」と「'89海と島の博覧会ひろしま」の2大イベントが町内で実施され、稽古に励まれた女性会の成果がグリーンピアで披露されました。

以来、町内の諸行事でも披露され、昨年の「新ええとこ祭り」のフィナーレを飾りました。今でもこの町民音頭は皆に親しまれ、踊り継がれています。

ちなみにこの歌詞は、安浦に来られた作詞家の島田陽子さんが、カキ筏が浮かぶ三津口湾の夕日に感激され、「きらめく…」のタイトルが誕生。わが町自慢の風景です。

広報やすうら 6月 4340



第9回全国豊かな海づくり大会にて

やすうら 記憶遺産

山本譲翁の残した 450 枚の風物画でたどる
安浦・暮らしの記憶

山本譲翁が生まれたのは明治末の安浦、浦尻にて。小学校を上がると呉海軍工廠で働き始め、大正から昭和に至る近代化の中で働きに働き通し、ようやく余暇を得た晩年、変わりゆく故郷の風物を描き残そうと絵筆を取ったのでした。



「昭和十二年当時内海」
制作：昭和 51（1976）年 6 月 18 日／当時の写真資料などを参考に制作したものと推測

一面の黄金の田。内海の中心部です。ここが、中世まで海であったとは想像しがたい。人の力で、海は陸に姿を変えたのです。山と海を人為的に作りかえ、何世紀もかけて田んぼを夢見た力。平地の限られた瀬戸内沿岸で、稲穂実る田園風景は生活の安定の象徴であったことでしょう。米が富をもたらすことを人々が知ったのは古代。初期の稲作が瀬戸内海を東に伝播した歴史上に、この土地もあります。

一面の田は、実は「中世」と「近世」にははっきりと分かれています。山裾の田は、西日本特有のため池技術と石積みによる中世の棚田。一方、平地の田は近世以降の新開で、請願によって干潟を干拓した新田です。

描かれた一面の稲穂の下に、たくさんの夢が重なって見えます。

温暖化の影響？

12 月にトンボが飛んでいる！

晩秋に元気な姿を見せていた赤とんぼの仲間も12月に入ると見かけなくなります。しかし、昨年12月中旬に奥条で元気に飛んでいるトンボを見かけました。珍種発見か！翅の半分までがオレンジ色をしたキトンボでした。今年は何時まで見られるでしょうか。気を付けてみてください。

日本記録は1月27日（高知）ですが越冬はできません。ちなみに、日本には成虫で冬を越すトンボが3種います。



ガラパゴス諸島に行った気分になれる？

国道185号沿い三津口の「らん美容院」横の空き地に大きな亀がいるのをご存じでしょうか？ケヅメリクガメのマイケル15才です。13年前にここに来たときは体長20cmだったのが現在60cm以上、体重40kgくらい。美容院のご主人、小川直己さんによると好物はバナナ。あと野菜をいろいろ食べます。暖かい日には空き地でのんびり日向ぼっこしています。交通量が多いので注意して見に来てくださいね。



三津口の巨大リクガメ



こじろ 古城ストアー

呉市安浦町三津口 2-19-24 ☎ 84-2354

今も現役
スーパーレディ

店舗外観



看板娘の信子さん



人気の巻きずし

「古城ストアー」は昭和 36 年、古城清丸・信子さん夫妻が創業。55 年続けてこられた信子さんは 84 歳、今も看板娘でレジに立たれる。車の免許もいち早く取られたスーパーレディ!!

初めはお好み焼き・かき氷の店で、貸本も始めました。そのうち、地域の要望に応じて、野菜や日用品などを増やし、惣菜も作るようになりました。当時はみんな仕事や学校へ弁当を持参していたので、その食材を提供するため朝 5 時からお店を開いて大変忙しかったそうです。

今は 2 代目、日出海・浩美さん夫妻が受け継いでいます。人気の巻きずしは、好評であつという間に売り切れ、週末は若者向きにエビフライなどをはさんだものもあります。評判を聞いて他の町の方から問い合わせがあるほど。安浦・風早の農協「ふれあい市」・広や広島緑井にも出しており、予約も受け付けます。

惣菜のほかにお弁当や仕出しを地域のサロンや集会、事業所などに配達しています。中味が盛りだくさんでびっくりしますよ。

写真でみる今と昔

安浦アーカイブ

時代とともに様変わりする景色や人々の暮らし。懐かしい風景をご覧ください。

中畑地区



昭和 30 年代中頃と思われる。野路西小学校の運動場で撮った集合写真。後方は当時の中畑地区。



廃校の為、同じ位置からは撮れず。家屋は新築されているが、昔ながらの懐かしい田園風景が見られる。

野呂川ダム



昭和 45～46 年頃のダム工事初期の写真、谷底は打田ヶ原・野呂川と旧道が見える。



野呂山の稜線は同じであるが、旧道も打田ヶ原の古戦場もダムの底に沈んだ。（ダムは昭和 51 年 3 月竣工）